

代表的なパソコン詐欺の手口

最近詐欺の被害が急増しておりますので、今回はパソコンにおける詐欺の手口と対策をお知らせします。

1. サポート詐欺（偽セキュリティ警告）

画面に「ウイルス感染」「ハッキングされた」等のメッセージと電話番号を表示し、偽のサポート窓口で連絡させて修理費やサポート費を騙し取る手口。

特徴： 大音量の警告音、シャットダウン不可、サポートを装った遠隔操作。

2. フィッシング詐欺

Microsoft、Amazon、銀行などを装ったメールやSMS、偽サイトへ誘導し、クレジットカード情報やパスワードを盗み取る。

3. ワンクリック詐欺

Webサイトやメール内のリンクをクリックしただけで「登録完了」と表示し、不当な利用料金を請求する。

4. ランサムウェア（身代金詐欺）

パソコン内のデータを暗号化して操作不能にし、復元と引き換えに身代金（仮想通貨など）を要求する。

5. 架空請求詐欺

実際には利用していない有料サービスの料金を、メールやハガキで請求する。

【被害を防ぐための対策】

1. 電話しない・送金しない： 画面の電話番号や、コンビニで電子マネーを買うよう指示は100%詐欺です。

2. ブラウザを閉じる： 警告画面は「Alt + F4」キーやタスクマネージャーで閉じるか、パソコンを再起動する。

3. URLと送信元を確認： 不審なメールのリンクはクリックせず、公式サイトからログインする。

4. セキュリティソフトの導入： ウイルス対策ソフトを常に最新の状態にする。

最近では、個人情報の流出と称して、交番の担当者へ直通電話で交代し、個人の預貯金情報を搾取することもあります。（筆者も怪しい電話に対応したら、ものすごく流暢でしたが、警察への通報の話をしたら「ガチャんと切れました」）

万が一、個人情報を入力してしまった場合は、警察のサイバー犯罪相談窓口や消費生活センター（188）へ相談してください。